

推薦調書（実装部門）

表彰区分	市	推薦都道府県	秋田県
地方公共団体名	横手市		
取組名称	横手市増田まんが美術館によるマンガ原画アーカイブ事業		
連携自治体、企業、団体等	文化庁、一般財団法人横手市増田まんが美術財団、漫画家、漫画雑誌出版社（編集者）		
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合の分野） ・教育 ・観光
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○横手市増田まんが美術館はマンガ文化の保存継承を目的に、マンガ原画の収蔵とその保存について力を入れている。保存方法の一つとして、収蔵原画のデジタルアーカイブ事業にも取り組んでおり、現在収蔵している 40 万枚以上のマンガ原画のうち、10 万枚を超えるマンガ原画のデジタル化が終了している。デジタル化されたマンガ原画は、コンテンツとともにそのメタデータも保存してマンガ文化の継承と発展に貢献しているが、文化の保存・継承・発展のみならず、それらを様々な形で公開し、また二次利用して発信する基盤としても重要な役割を担っている。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○横手市では 1995 年に建設されたまんが美術館のリニューアルに伴い、「マンガの原画聖地」をコンセプトにマンガ原画の保存と活用に特化した施設へとリニューアルした。マンガ原画の収蔵に力を入れるとともに、原画保存についても独自の調査と運用試験を重ね、文化庁事業のもと原画のデジタルアーカイブを実践してきた。現在では、まんが美術館の取り組みの一環として、一般財団法人横手市増田まんが美術財団がマンガ原画のアーカイブ事業を継承し、国内におけるアーカイブ議論をリードする最重要マンガ関連施設として位置づけられている。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○劣化が避けられないマンガ原画において、美術館として価値あるこの文化資産を将来に残し、美術館利用者に提供するという観点でデジタルアーカイブ事業は重要な役割を果たしている。また、膨大な量のマンガ原画をメタデータとともにデジタル保存することで、貴重な資料へのアクセス性を高めることも可能となっている。</p> <p>○また、デジタル化されたコンテンツは条件の範囲において二次利用することができ、情報発信や研究、教育、ビジネスへの展開も容易となる。</p>		

<p>デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）</p>	<p>○横手市増田まんが美術館への来場者数 令和元年度 約 140,000 人／令和 2 年度 約 83,000 人／ 令和 3 年度 約 87,000 人</p> <p>○デジタルアーカイブ数 約 10 万点（※令和 3 年度末現在）</p> <p>○デジタル化した原画を活用した教育教材パンフレット、市事業関連パンフレットの製作</p>
<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>○初出単行本と原画の突き合わせ 原画収蔵時に単行本と作品名、巻数、収録されている各話のタイトル、各話のページ数などをデータベースに登録。これをベースに受け取った原画と単行本を 1 ページずつ突き合わせて確認し、紛失原画の有無やカラーとモノクロの各枚数なども含め、全体像を詳細に把握する。</p> <p>○専用フォーマットで原画台帳に入力 専用データベースシステムに下記の詳細な原画情報を入力し、検索する際の精度を高める。 作家 ID／作品 ID／巻数 ID／話数 ID／原画 ID／画像 ID／原画枚数／原画サイズ／色数／画材／状態（書き込み、シミ、黄ばみ等）／その他</p> <p>○高解像度によるスキャニング作業 スキャナーを使い、1200dpi という高解像度で原画をパソコンに取り込みデジタルデータ化する。一般の出版物を印刷する場合の必要な解像度 400dpi を比較するとその 3 倍の解像度にあたる。スキャニングの時間は 1 枚あたり約 10 分、容量は 1 枚あたり約 700MB となる。これにより、幅広い媒体への活用が可能となる。</p> <p>○HDD（NAS サーバー含む）へ保存したデータの活用 デジタル保存したデータの一部は美術館館内の大型タッチパネルと連動し、閲覧できる。高解像度でデジタル保存された原画を画面上で拡大でき、繊細なペン裁きや作画タッチなどを詳細に鑑賞でき、漫画家を目指す人たちにとっての学びの場として活用されている。</p> <p>○Google arts & Culture との連携 Google とパートナーシップ契約を締結し、Google arts & Culture のプラットフォームを活用して収蔵作品約 70,000 点が閲覧可能となっており、マンガ文化の発信と共に横手市への観光誘客にも繋がっている。</p> <p>○デジタルデータを利用した市事業へのマンガ活用 デジタル化したマンガ原画を教育、観光、行政情報の発信など幅広い市事業に活用することで、マンガの持つ「訴求力」「伝達力」「共感力」が市に対する注目、興味、好感などさまざまな効果が得られている。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>○日本のマンガ文化の発信とともに、郷土が描かれたマンガは地域の歴史・文化資料としての価値もある。文化の保存・継承・発展の基盤のみならず、情報発信基盤や教育目的での活用促進も図っていく。</p>



横手市増田まんが美術館によるマンガ原画アーカイブ事業

1 マンガ原画における課題
漫画、遺族等
出版社等
原画を預けたい…
自分で原画を
保存するには…
原画をアーカイブ
してほしい…

— その課題に取り組むのが

まんが美術館に
原画を保存する
ことで漫画家等の
保存、管理の
負担を解消
公的施設保管による
安心感などの効果が
期待されています

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA MANGA MUSEUM

オラの
ふるさと

蔵された原画は
適正な温湿度管理はもちろん
デジタルアーカイブによる
恒久的な保存を実現

1200dpiでの
スキャン

そしてデジタル化された原画は
横手市のまちづくりにも活用されます

収蔵された原画をデジタルデータ
で鑑賞できる

わかりやすい
字算書

市の発刊物に活用

台帳管理

横手市増田まんが美術館による
マンガ原画アーカイブ事業は
横手市の情報発信だけではなく
日本の『マンガ文化』の
保存・継承に貢献しています

**横手市による
デジタル化された
マンガ原画の活用**
※公的利用による
非収益事業に限る

マンガを活用してわかりやすく
教育教材パンフレットに活用

世界中にマンガ文化を発信
Google Arts&Culture への
参画で収蔵原画を鑑賞できる

6